



発行所
 東京九嶺宮原同窓会事務局
 〒263-0043 千葉市稲毛区小仲台7-21-26-508
 末永俊幸方
 電話 090-6943-8065
 印刷：泰成印刷株式会社
 電話 03-3631-8141

情操教育の 大切さ



東京九嶺宮原同窓会
 会長 原 武
 (宮原9回)

昨今、小中高の生徒たちの間のいじめが目につく時代になりました。しかし、いじめの問題は大きな社会問題とされながら、いっこうに無くならないのが現状です。いじめによって、あつてはならない自殺も人の心を痛めます。文部科学省が昨年発表した2015年度の全国小中高と特別支援学級で認知されたいじめの件数は、1985年の調査開始以来最多の224,540件となっています。

この件数は教師が認知した件数ですので、気づかない数と考ええると、さらにその数は増えると思います。こうした状況は昔に比べて学校側の認知意識が高まってきたり、スマホなどの時代にあつたツールの発達で認知件数が上がってきたとも考えられますが、しかし少子化により生徒の数は減ってきていますので、それらを相殺してもいじめの数は増えているのが現状だと思えます。

こうした時代に少しでもいじめをなくすために必要なのは情操教育だと思えます。情操教育とは、道徳や芸術、宗教などの社会的価値を持った感情や意志を養

うための教育、いわゆる心を育てる教育です。これは動植物など自然に触れて愛情を持つ心、芸術文化に触れて心を豊かにすることが目的です。特に幼少年期に音楽に触れることは大事なことです。音楽は人の心に慰めや労り、優しさや希望を与えてくれるからです。

昨年の11月に呉市文化ホールの主催で、宮沢賢治の名作童話「銀河鉄道の夜」の朗読公演が行われましたが、これは名取裕子さんの朗読にピアノ演奏が付き、ホリゾントには札幌の絵本作家、そらさんのイメージ画が場面に応じて投影されるという公演でした。宮沢賢治は、詩や、童話などで知られていますが、彼自身クラシック音楽にも興味を持ち、自らチェロの演奏をし、チェロやヴァイオリンも複数持っていました。そして地元でレコードコンサートを開いたり、自らの詩に作曲をしたり、童話の中に、音楽の作品名も書きこんでいます。この作品には、宮沢賢治の宇宙観、宗教観、人生観などが込められ、物語の中には、いじめの不条理や友情、自己犠牲など、人が生きて

いく上で必要な事を考えさせられる内容となっております。

まさに情操教育のお手本のような童話だと思えます。この公演に宮原高校の全校生徒と先生、父兄合せて600人余りの皆さんが、芸術鑑賞として来て下さいましたが、いじめの不条理や、人を思いやる心、友情などについて考えて頂けたと思います。また呉市下蒲刈町では、蘭島閣美術館のロビーで毎月第三土曜日の夜、ギャラリー・コンサートを行っています。ですが、このコンサートに来て下さるアーティストが下蒲刈島の小学生の為に学校を訪問して音楽室や体育館でミニ・コンサートも時々やって下さっています。

12月には日本を代表するピアニストの小山実稚恵さんが、下蒲刈小学校の音楽室で、全校生徒たちにポピュラーなピアノ曲を解説つきの演奏を行って下さいました。子供たちは、熱心にピアノ演奏に聴き入った、とのことでした。過去ヴァイオリンの大谷康子さん、ヴィオラの山村真積さん、ピアノの小山京子さんもこのミニ・コンサートをやって下さっています。こうした情操教育の一環ともいえる子供たちへの芸術文化活動はもっと広がって欲しいと思えます。

次世代の子供たちの心に訴えかけるこうした機会が増えることにより、不幸ないじめが少しでも無くなる事を心から願っています。